寄稿

秩父札所めぐり
― 江戸巡礼古道巡拝 ―

土　門　孝　彰

（秋田銀行営業支援部　チーフアドバイザー / インスペック株式会社　取締役
一般社団法人エレクトロニクス実装学会　電子部品・実装技術委員会副委員長）

一昨年、昨年と「あきた経済」３月号に欧州旅行の内容を寄稿したが、今回は国内のいわゆるハイキング旅行（日本百観音霊場、秩父観音霊場）について旅行記としてまとめてみた。

今回紹介する秩父三十四ヶ所観音霊場（秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町）は、西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所と共に、日本百観音霊場に数えられており、2024年３月、2024年11月、2025年６月と３回に分けて成就した内容である。素朴な風土に培われた秩父の観音様が多くの人々から親しまれ、幸せを祈る人々の心のふるさとになっている“訳”を旅の途中で交流した人との会話の中から紹介してみたい。

１　はじめに

2000年頃に山歩きやハイキングで知り合った、横浜、横須賀を中心としたグループ（必ずしも若いとは言えないメンバー）からの誘いもあって、今回の秩父三十四ヶ所の札所巡りを行った。

ルートファインディングして、歩くことをメインに３回に分け、一部観光タクシーを使っての巡礼ハイキングとした。

２　埼玉県の秩父札所について

秋田からのルートは、都内へ移動し新宿からの西武池袋線特急ラビューを使い、終点の西武秩父駅を旅の起点とした。

場所は、武甲山を遠くに臨む影森地区、小鹿野地区、大原野地区である。最後に示す案内図を参考にしていただければわかり易いかと思う。

蛇足だが、我々の時代は卒業式の歌と言うと“仰げば尊し”であったが、影森地区の影森中学校は、いつかしら卒業ソングとして歌われるようになった“旅立ちの日に”の発祥の地である。歌の発祥を記念して作られた、市街地を一望できる秩父ミューズパークにあるモニュメント「旅立ちの丘」からは自然豊かな秩父の山並みを望め、希望がわいてくるような聖地であり、ここへの立ち寄りもお勧めしたい。

第１章は、2024年３月23，24日と２日かけて回った札所番号㉓～㉙、①～⑪の中から印象に残った札所㉘橋立堂、㉙長泉院を紹介したい。

スタートは、影森駅より、元昭和電工の工場を左手に見ながら岩井堂を目指した。石段を登りきると舞台づくりのお堂が見え、㉖円融寺の本尊が祀られていたお堂であり、300段の階段も途中のお地蔵様に激励されながらたどり着いたお堂であった。岩が露出し、木の根が這う尾

根道琴平ハイキングコースを、㉗大渕寺を右に見ながら先を急いだ。

橋立浄水場や鍾乳洞を経て、武甲山の灰色の岩肌とコントラストをなすような朱塗りの観音堂が目の前に現れ、㉘橋立堂で納経帳への御朱印（参拝証明）をお願いした。待っている間、娘さんと一緒に参拝に来たという婦人が、「主人と歩いた道をもう一度思い出しに来ました」と話しかけてくれた。同行の娘さんもしっかりとしたキャラバンシューズをはいて、亡き父を忍びながら歩いているようであった。それぞれの思いを巡らせながら参拝しているのである。

芭蕉の句碑を見ながらたどり着いた㉙長泉院にある、龍女の導きで観音像が見出されたという縁起を伝える壮大な奉納額は、疲れを十分に癒してくれるものであった。

第２章は、2024年11月９、10日の２日間、⑫～㉒、㉚～㉝を歩いた中から、江戸時代からの古道が残る㉚法雲寺、㉛観音院、㉜法性寺について紹介する。秋の深まりつつある頃だったが、それぞれの寺の境内の紅葉も見どころの一つであった。

西のはずれにある㉚法雲寺は観音堂の眼下に広がる浄土式庭園が素晴らしく、観音堂に展示された「楊貴妃の鏡」からは楊貴妃と縁が深いことが理解できた。同じく北西のはずれにある㉛観音院へは観光タクシーとバスを使い効率よく回った。仁王門から約300段もの石段を上り切った先には、本尊聖観世音菩薩を祀る、三方を岩の切り立った大絶壁に囲まれた本堂が堂々と立っていた。㉜法性寺は別名「お舟観音」とも呼ばれており、奥の院の大きな岩を船に見立て、聖観音菩薩が船に乗り到来したとのこと。山道は大変だがお勧めしたい場所である。

観光タクシーで残りの寺を回る中で、前後しながら同じコースをレンタカーで回る家族がいた。お父さんと子供２人が巡礼の白装束を着て、お母様の供養をしながら回っている家族であった。「自分が亡くなった時に棺桶に納経帳を納めてもらうように考えています」としみじみと語っていた。昔は徒歩で巡礼したようであるが、車を効率的に使って、季節を変えて複数回訪れる方が多いようである。

（法雲寺と観音院でのスナップ）

第３章は、2025年６月７日、結願の最終訪問寺として㉞水潜寺を紹介して締めたいと思う。

場所的には北のはずれにあるお寺で、いわゆる参拝最後のお寺である。平石馬頭尊堂前より、江戸巡礼古道に沿って、熊の出没にも注意しながら札立峠越えの難所に挑戦。つづら折りの山道を赤い幟を目印に結願寺へと急いだ。峠からの最後の下りは光が遮られ寂しい山道である。

我々の参拝した時期は初夏であったが、秋になれば紅葉がひときわ際立つことが想像される寺であった。心行くまで感動の余韻に浸ることができた。

一緒になったほかのグループのメンバーの方は西国三十三ヶ所や坂東三十三ヶ所も歩いているものの、「秩父は特に江戸時代の古道跡が色濃く残っており、趣があり一番の札所ですよ」と語っていた。何度も訪れているようで、納経帳のページは御朱印が何度も重ねて書き加えられていた。札所巡りをライフワークのようにされている方もいるようだった。

（納経帳）

（結願の水潜寺へのアプローチ）

（札立峠と秩父華厳の滝）

3　おわりに

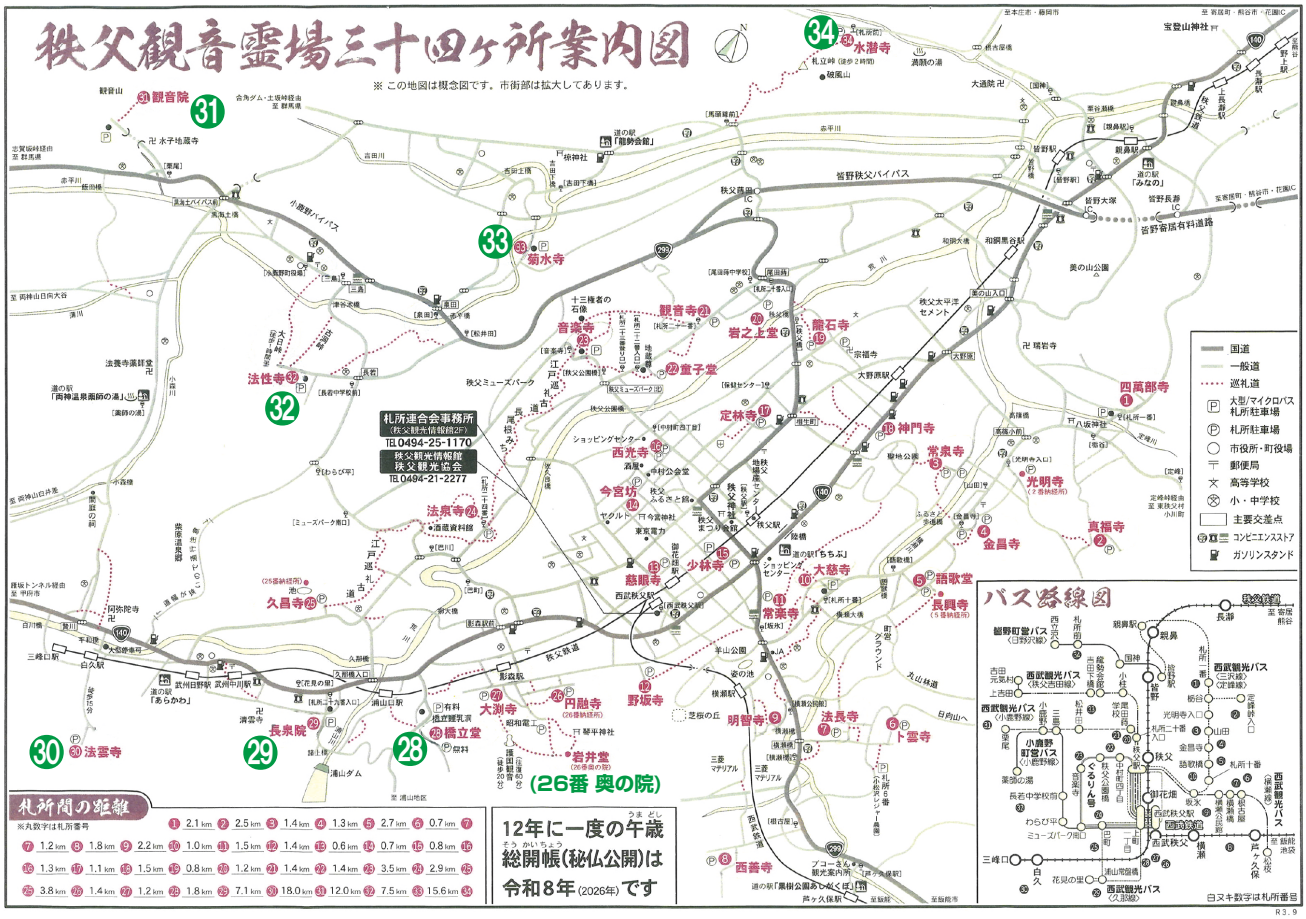
あえて最後に書き加えたいと思うが、長い間闘病生活をしていた姉が2023年９月に癌で亡くなり、母と共に悲しんでいたものの・・・

今回の巡礼の旅は静寂な山村と美しい自然の風光を背景に、決して容易には走破できない道のりであり、ある時は谷を渡り、奥深い山路を一歩一歩たどり、野づらを横切っての巡礼は、江戸時代からの札所ならではのものなのでしょう。

弔いの形として、故人を偲び、静けさの中で自分と向き合える空間を感じた。

秩父札所の参拝心得を一部紹介してペンを置きたいと思う。

一、ご本尊に合掌一礼
一、急がず昼休み、一休み　一休み
一、三年かけても満願成就



(26番 奥の院) 岩井堂
㉘ 橋立堂
㉙ 長泉院
㉚ 法雲寺
㉛ 観音院
㉜ 法性寺
㉝ 菊水寺
㉞ 水潜寺